

まちの
スケッチブック

みんなの笑顔を支えたい!

I want to support the smile of all.

自由民主党・新緑会泉佐野市議員団

千代松 大耕

ちよまつ ひろやす

市民アンケートの結果／近年の公立病院の状況
地方独立行政法人とは？／医療体制の充実

市政報告
vol.73

地域をつなげる安心づくりで
“いちばん”

「千代松大耕のニュースレター」を発行しています!

読者の方々からは、「泉佐野市の状況がよくわかる。」
といった好評をいただいております。

千代松大耕メールマガジン

市政や議会の情報をいち早く市民のみなさまに、お伝えするためにメールマガジンを発行しております。

メルマガの登録は、千代松大耕のホームページ、または下記のアドレスからできます。

ホームページアドレス

<http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

登録ページアドレス

<http://www.mag2.com/m/0000156662.html>

ひとりでも多くの方に登録していただければ幸いです。

*検索サイトで「千代松大耕」と検索していただければ、私のホームページにヒットします。

携帯用メールマガジンを開設しています!



携帯版「千代松大耕のニュースレター」の購読を希望される方は、左記のバーコードを携帯電話で読み取るか、

<http://mini.mag2.com/>

または「千代松大耕ホームページ」から登録してください。

千代松大耕ブログ「Izumisano未来日誌」を開設しています

<http://plaza.rakuten.co.jp/chiyogiin/>

「かけはし」の開催

市政と市民の「かけはし」となるべく、毎月一度、市政勉強会「かけはし」を開催しています。開催回数は70回を超えました。基本的に第4木曜日の午後7時30分から午後8時30分まで泉の森ホール2F小会議室で開催しております。前半は私がその時々々のテーマをお話します。後半は参加者の方々との意見交換やご質問にお答えします。どなた様のご参加もOKです。興味のある方は是非ともご参加ください。

連絡先 泉佐野市松原2-5-31

TEL.458-1708/FAX.464-9478

ホームページ: <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

メール: chiyoma51@hotmail.com

発行部数累計: 728,500部

*「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。

千代松大耕のプロフィール

1973.10.3 泉佐野市松原生まれ
1986.3 泉佐野市立第一小学校 卒業
1989.3 泉佐野市立佐野中学校 卒業
1992.3 同志社香里高等学校 卒業
1996.3 同志社大学経済学部 卒業
1998.7 米国Lincoln University 大学院 修了
2003.3 大阪府立大学大学院 修了
2005.3 和歌山大学大学院 修了

1999.4 株式会社 堀場製作所 入社
2000.2 泉佐野市議会議員初当選
2002.5 泉佐野市議会議員2期目当選
2006.5 泉佐野市議会議員3期目当選
2010.5 泉佐野市議会議員4期目当選

(議会)

2004.5 泉佐野市議会 第61代副議長
2006.5 泉佐野市監査委員(議会退出)
2008.5 泉佐野市議会 第65代議長

その他、厚生文教委員長、予算特別委員長、決算特別委員長、市町村合併検討委員長、行財政委員長などを歴任

(現在)

(社)泉佐野青年会議所 特別顧問
泉佐野市バレーボール連盟 会長
泉佐野市少年軟式野球協会 副会長
泉佐野市ソフトボール連盟 顧問
泉佐野市柔道連盟 理事
泉佐野市青少年指導員
泉佐野市交通指導員
第一小学校協議会 委員
泉佐野市私立幼稚園連合会 顧問
泉佐野青空市場活魚協同組合 顧問
(社)全国自衛隊父兄会泉南支部 顧問
同志社大学体育会アメフト部OB会 常任理事
同志社大学校友会泉州クラブ副代表
佐野中柔道部OB会 相談役
日本教育再生機構大阪 泉佐野支部長
泉佐野商工会議所青年部 会員
看護を考える市町村議員の会 副幹事長
自由民主党 泉佐野支部 政務調査会長
自由民主党 大阪第19選挙区支部 青年部長
自由民主党 大阪府連青年局 次長

「議事を傍聴しませんか?」

議員の主な仕事は「市政に市民の声を届ける」「市政のチェック」「市政への政策提言」の三つです。これらの仕事を果たすために、定例議会におきまして毎回、一般質問をしています。本会議場や委員会 における質問は、議員の務めであるとともに、権利でもあります。議場は市役所5階にあります。どなた様も気軽に傍聴できますので興味のある方は是非ともお越しください。

(問合せ先) 泉佐野市議会事務局 072-463-3723

市民アンケートの結果

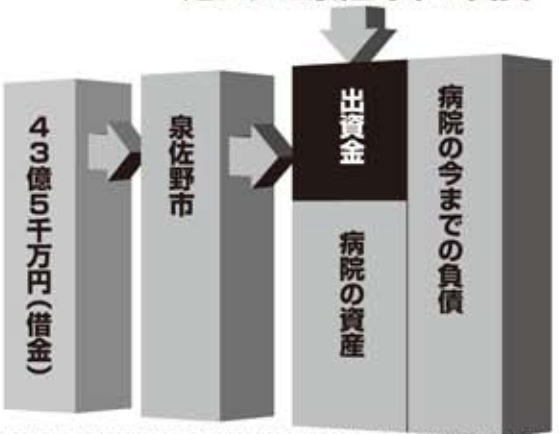
泉佐野市は平成21年に第四次総合計画を策定しました。総合計画とは、地域のまちづくりや行政運営を総合的、または計画的に進めていくために策定されるもので、市にとっては施策の基本となるものです。策定にあたって、泉佐野市は平成19年に市民アンケートを実施しました。無作為に3,017件の世帯に送付し、回収件数は1,039件、回収率は34.8%でした。その中で泉佐野市にどのような施策が重要か、どの施策に満足しているかといった内容を問う項目がありました。施策の重要性でトップにきたのが「医療体制の充実」で93%でした。また満足度で最下位となったのが、これも「医療体制の充実」で37.1%でした。つまりアンケート結果では、市民の方々は施策の重要性としては最も「医療体制の充実」を求めており、現在の医療体制には満足していないということが、このアンケート結果で明らかとなったのであります。

また泉佐野市から引越していく予定の方々に、引越す理由を聞いたところ、「勤務先の都合で引越す必要があるから」という理由が続いて「福祉や医療の条件が整っていないから」という理由が25%と次いでいました。これらの結果は、これからの泉佐野市にとって、重要であり、かつ充実させていかなければならない施策は「医療体制の充実」であるということを示しています。

近年の公立病院の状況

近年の公立病院をとりまく環境の悪化は、厳しい保険財政、診療報酬が引き下げられたこと、病院の病床数の削減、慢性的な医師・看護師不足、また本体の地方自治体の財政

足らずを泉佐野市が出資



悪化が要因であります。2007年12月に総務省より出されました「公立病院改革ガイドライン」におきまして、公立病院の経営形態の見直しが掲げられました。この見直しによる経営形態は、地方独立行政法人、指定管理者制度、民間移譲にほぼ限定をされてきました。そのようなことから全国的に経営難に陥っている公立病院の多くは、地方独立行政法人化の検討を始めただけではありません。市立泉佐野病院におきましても、経営状況の悪化が大きな難問として顕在し、地方独立行政法人化に向けた取り組みを見せました。

泉佐野市議会では、平成21年6月議会で設立準備関係の予算承認、平成21年12月議会で定款、評価委員会設置の条例制定、平成22年3月議会では、設立のための予算、平成22年9月議会では中期目標の制定、そして昨年末の12月議会では、承継財産の承認、職員引継条列、市立泉佐野病院廃止の条例等、地方独立行政法人化に向けた関連条例の審査がおこなわれてきました。

地方独立行政法人とは？

地方独立行政法人とは、住民生活、また地域社会において、確実に必要な施策において、必ずしも地方自治体が直接実施する必要はないものであって、しかしながら民間に委ねた場合においては、実施されないという恐れがあるものを効率的、効果的に運営していくことを目的として、地方自治体が設立する法人であります。よって「民間委託」「民営化」とは全く性質の違うものであります。

市立泉佐野病院を地方独立行政法人化する最大のメリットは、職員を非公務員型にすることによって経営形態に柔軟性を持たせる

ことができ、医師確保、看護師確保に臨機応変な対策がとれることでもあります。またあわせて民間病院では実施されないような不採算的な部門での医療も引き続いて維持していくことであります。法人化後の「りんくう総合医療センター」は、泉佐野市が出資する病院であり、最終的な責任は泉佐野市が担うということとは以前と変わりありません。

医療体制の充実

12月議会では「地方債の許可」という議案が上程されました。これは市立病院を地方独立行政法人化するために法律で義務づけられた「出資金」のための借金をするという議案です。公立病院を独立行政法人化する際には負債と資産の差額を「出資金」として設立団体が出資しなければならぬルールがあります。民間企業としてはありえないバランスシートとなり、この金額がなんと「43億5千万円」にびっくりする金額です。この出資金を泉佐野市は、全額借金でまかないました。この借金は「第三セクター等改革推進債」(以下、三セク債)という借金でしたが、これは、地方自治体において手の施しようがなくなってしまうた会計を処理していくために国が設けた借金です。通称「折りたたみ債」と言います。言わば、どうしようもない会計や第三セクターを「折りたたむ」ために設けられた借金です。泉佐野市は宅地造成事業会計という、手のつけられなかった会計を廃止するために、この三セク債を利用しました。また病院会計も独立行政法人化された後は、地方自治体の連結決算の対象外となるために、この三セク債が活用できるということによって、泉佐野市はこの借金を利用しました。

法人化後も泉佐野市は、年間約14億円もの運営交付金を病院に出していきます。これは不採算部門を維持していくために掛かる経費も含めてです。泉佐野市は、この14億円から出資金分を少しずつ差し引いて病院側に出していくので、年間10億円ぐらいには圧縮できるという説明が12月議会でありましたが、「これから本当にそれで済むのだろうか?」という疑念がわいてきました。宅地造成事業会計は「折りたたんで」しまったので、残ったのは莫大な借金と金利の返済ですが、さらなる赤字を生み出す恐れはありません。しかし病院は、経営がうまくいかないと、さらなる赤字を生み出す恐れが大いにあり、そして最終的な責任は泉佐野市が負うことになります。そのようなことから、これからの

市政運営の中において、法人化後の病院経営は最重要ポイントになってくると、私はとらまえています。また市民の方々にとりまして施策として最も重要性が高く、最も満足度が低い「医療体制の充実」のためには、経営の安定は当然のこととして、加えて市民ニーズに添えていけるような病院の体制を構築していかなければなりません。医師確保、看護師確保、収支改善などのしっかりと「目標設定」を病院内で策定し、それをきっちりクリアしていく経営陣の姿勢が必要であります。またあわせて患者目線の病院運営も必要であります。これからの病院経営を任せしていく経営陣については法人化される前に、十二分な指摘を議会からおこななければならぬと私は考えています。